AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

旭川医科大学研究フォーラム (2015.2) 15,1:116-118.

第11回 日本口腔ケア学会総会・学術大会開催のご報告

松田 光悦, 竹川 政範

旭川医科大学研究フォーラム 15　：116 ～ 118，2014

学界の動向

第 11 回　日本口腔ケア学会総会・学術大会開催のご報告

松　田　光　悦*　　竹　川　政　範**

去る６月 27 日（金）から６月 29 日（日）の３日間、旭川市市民文化会館において第 11回日本口腔ケア学会総会･学術大会を開催致しました。全国から、会員、非会員合わせて約 800 名の参加をいただき、口腔ケアに関する活発な議論が繰り広げられました。旭川医科大学職員の皆様、旭川医師会、旭川歯科医師会を始め多くの皆様のご支持、ご援助を賜り、お陰様で成功裏に終了できました。この場を借りまして、心より御礼申し上げます。

本学会は、看護師、歯科衛生士をはじめ医師、歯科医師、介護士、言語聴覚士、栄養士など多職種から構成されており、現在 4000 名を超える会員から成り立っています。近年、「口腔ケア」の社会的認識度が、にわかに高まってきており、2011 年における「歯科口腔保健の推進に関する法律」の制定以来、「周術期口腔機能管理」の保険導入、また「チーム医療の推進」や「医科歯科連携の強化」など「口腔ケア」に関わる多くの重要な課題が提供されてきました。さらに 2014 年の保険改訂に伴う「周術期口腔機能管理」のさらなる充実は、口腔ケア学会の果たすべき役割、責任をより明確なものとし、エビデンスに基づく口腔ケア理論の確立と実践が求められております。しかし、口腔ケアの実情において、「口腔ケアの必要性」ということは広く認識されておりますが、エビデンスを提供する論文に乏しく、いわゆる『標準化』はいまだ達成されておりません。そこで今回の学術大会では、学会として推薦する「口腔ケア理論と実践について」の内容をまとめることを目標に、１.「ＩＣＵにおける口腔ケア」、2.「がん化学療法と口腔ケア」、3.「放射線治療と口腔ケア」､4.「ターミナルケアと口腔ケア」、5.「言語療法士の行う口腔ケア」の５つのテーマに関し、コンセンサスカンファレンスを開催致しました。コンセンサスカンファレンスで行われた議論の概要を紹介させて頂きます。

「ICU における口腔ケア」は「ICU で経口気管挿管中の患者に対する口腔ケアの方法」に関して討論が行われました。国指定のがん診療拠点病院計 397 施設の ICU を対象にアンケート調査を行い口腔ケアの実施状況と VAP の発生率について報告されました。その後、発表者から VAP 予防のためには「汚染物の回収」を意識した口腔ケアが必要である旨の報告がされ、さらに口腔ケアの有効性を示す研究における問題点について言及されました。旭川医科大学集中ケア認定看護師上北真理さんは、口腔の清潔保持だけでなく口腔機能

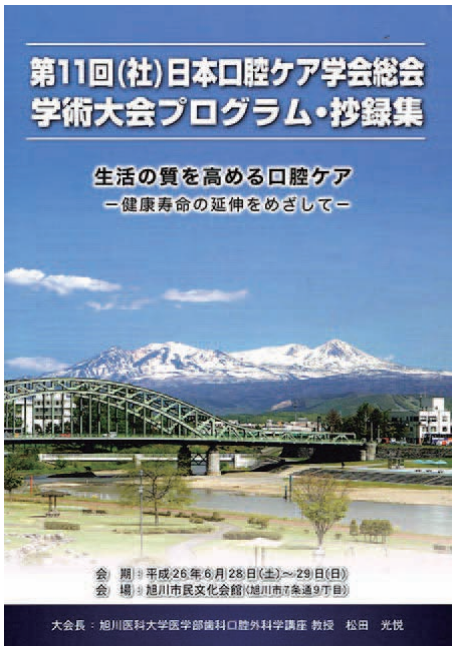
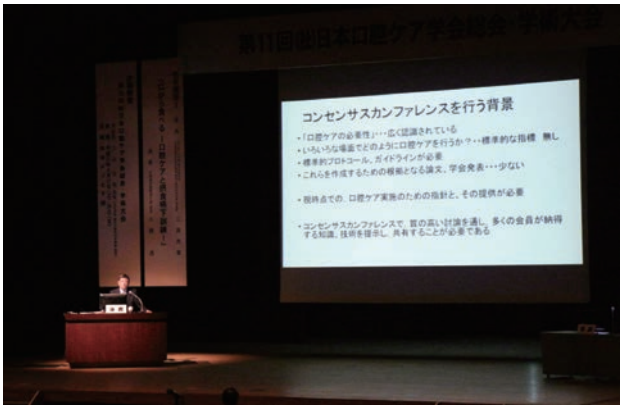


写真 1

*旭川医科大学　歯科口腔外科学講座　教授　　**旭川医科大学　歯科口腔外科講座　准教授

の維持回復を目的とした口腔ケアの実施が今後の課題であることを示しました。指定発言として旭川医科大学医師小北直宏氏は、ICU で看護師が口腔ケアを実施しやすい環境にするための課題について、長崎大学林田　咲先生から気管挿管されている患者の唾液中の細菌数を減らすために 200ml の水で洗浄することが有効であると報告がありました。「がん化学療法と口腔ケア」のテーマでは「化学療法の合併症である口腔粘膜障害をいかに防ぐか―最近の知見を踏まえて考えるー」と題してカンファレンスを開催しました．化学療法薬の投与による口腔粘膜障害は副作用なのでその発症を防御することはできないが、この合併症を最小限に抑えるには、口腔ケアの方法をいかに行っていくかに関して討議されました。「放射線治療と口腔ケア」に関しては、「頭頚部がん放射線療法を支える歯科口腔管理のエビデンス、コンセンサス」と題して議論がなされました。口腔機能管理には統一された具体的な対応方法はガイドライン等も無く経験的に培われた施設独自の管理が行われているのが現状であることが報告されました。本カンファレンスでは、現在の頭頚部放射線治療における口腔機能管理（口腔ケア）の共通項を整理した上で、その問題点・疑問点を明確にする議論がなされました。終末期患者の口腔ケアに関して「ターミナルケアにおける口腔ケア」と題して多職種の発表者にお集まりいただきコンセンサスカンファレンスが行われました。終末期患者にとって「人間らしく人生を全うする」という意味で摂食を含めた口腔ケアは非常に重要なケアであります。また患者は常に孤独であり、他者に口腔の世話をしてもらうことが大きな救いとなります。そこで、重病患者や終末期患者



が人間らしく生きると同時に医療従事者や介護家族らの不安や労働負荷を軽減するために、摂食や心のケアも含めた口腔ケアについて各職種から先進的な取り組みをされている方々の報告を中心にコンセンサスカンファレンスが進められました。「言語聴覚士が行う口腔ケア」のコンセンサスカンファレンスでは、指定発表者から急性期リハ、回復期リハ、認知症リハなど、それぞれの場で、摂食・嚥下リハビリテーションを進める際に、ST として抱える問題と「口腔ケア」を実施する目的、方法、問題点が示され、ST が「口腔ケア」を実施する際の基本的な目的と意義、さらに禁忌事項を挙げ、「ST は口腔ケアをどこまでできるか」について議論されました。本コンセンサスカンファレンスは学会として初めての試みではありましたが、どのテーマにおいても多くの参加者が有り、ある程度のコンセンサスが得られたもの、またコンセンサスを得るには至らなかったものの課題が明確になったものと、一定の成果は得られたものと思われます。学会として、さらに努力し口腔ケアの標準化を目指したいと思います。

本学術大会では、コンセンサスカンファレンスの他に特別講演１題、教育講演２題、シンポジウム２テーマが行われ推薦発表９題、一般講演 73 題、ポスター発表 77 題の学術講演が行われました。その一部を紹介させていただきます。

シンポジウムは「在宅療養と口腔ケア」、「口腔ケアの職種間および地域連携」の２テーマについて行われました。シンポジウム１では医療、歯科医療、看護、介護、行政、教育の視点から「在宅療養と介護・・・口腔ケアの関わる現状と課題」に関して幅広い議論を行うために、北海道で活躍されている方々をシンポジストとしてお願いしました。中でも北海道医療大学石垣靖子先生からは、看護師およびご家族としての経験から「終末期の方が口から食べること」の意義、医療･介護職および家族が病人の「食べること」を支え、病人の状況に合わせた口腔ケアができるようにサポートすることの意義についての講演は参加者に深い感銘を与えるものでありました。シンポジウム会場は 308 名の収容人員でしたが、シンポジウム開演前から満席となり終了まで着席できない参加者が多数出るほどの盛況でした。シンポジウム２では「口腔ケアと地域連携」について議論を行いました。内容は、院内での他

写真３　コンセンサスカンファレンス

職種連携とプロフェッショナルケアの意義、地域における医科歯科連携、病院と歯科医院連携についてシンポジストから発表があり活発な討議が行われていました。その中で、北海道がんセンター佐々木　由紀子さん、都立駒込病院　茂木　伸夫先生の発表から口腔ケアの地域連携が進んできていることの実感が得られるシンポジウムでありました。

教育講演１では、北海道医療大学　古市　保志先生から「歯周病と全身の健康状態との関連性　- up to date -」と題して歯周病と全身疾患との関連性について最近の知見が紹介されました。歯周病と糖尿病、動脈硬化症とそれに続く虚血性疾患、誤嚥性肺炎、早産・低体重児出産さらに、関節リウマチ、すい臓癌などとの関連性および両者の関連性発現のメカニズムについて解説がありました。さらに歯周病治療による血糖コントロール、動脈硬化症、そして早産・低体重児出産などへの改善効果について最近の知見を解説頂きました。　また北海道言語聴覚士会　小橋　透先生から「口から食べる　口腔ケアと摂食嚥下訓練」と題して教育講演２が行われました。現在、重度の嚥下障害者の誤嚥を完全に防ぐことは困難であり、誤嚥性肺炎予防に最も有効とされるのは口腔ケアであること、口腔ケアの目的は誤嚥予防だけではなく、たとえ誤嚥しても肺炎を生じさせないことであり、摂食・嚥下障害をもつ患者さんは病期にかかわりなく一貫してリハビリテーションが行われるべきであるとの観点から、急性期から在宅期までの口腔ケアと摂食嚥下訓練について講演頂きました。

また Café のような親しみやすい雰囲気の中で、多職種がケアについて語りあうという旭川発祥の取り組みである「ケア・カフェ」の併催も、コンセンサスカンファレンス同様、本学会では初めての試みでありましたが、「口腔ケア」をテーマに、多くの会員に経験して頂きました。機会があるごとに、各地域で継続して頂ければと思っております。

旭川市旭山動物園の板東　元園長にお願いした特別講演は大変好評で、講演後、多くの参加者が旭山動物園に向かい、会場が一時閑散となるハプニングもありましたが、このようなことも含めて盛会であったと感じております。

この学会が旭川市で開催されたことにより、近隣、市内の看護師や歯科衛生士をはじめ多くの医療従事者の方々に参加していただき、この地域における口腔ケアへの意識がいっそう高まったものと思います。私どもも今まで以上に、地域医療連携を強化し、地域住民の健康のために努力して参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたしまして、第 11 回日本口腔ケア学会総会・学術大会開催のご報告と致します。